

◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の今週の報告数は5例で、本年の累積報告数は49例となっています。第27週以降、報告が継続しています。
- A型肝炎の報告が1例あります。推定感染経路は経口感染で、推定感染地域は国外(カザフスタン)です。
- 流行性角結膜炎の定点当たり報告数は1.70(17例)で、本年で最も多くなっており、先週(0.90)に比べ急増しています。
- インフルエンザ患者の集団感染(クラスター)の第37週の報告数は、京都市、全国ともに大幅に増加しています。新型インフルエンザによる全国の入院患者数は、9月9日～9月15日で102人で、そのうち基礎疾患を有する者等が33人、急性脳症・人工呼吸器使用患者数は8人です。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は3.59(244例)で、先週(定点当たり報告数 3.71, 252例)に比べやや減少しているものの、全国の定点当たり報告数(3.21)を上回る高い値となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 5例【1月以降の累積報告数 49例】
- 四類: A型肝炎 1例(第35週)【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類: クロイツフェルト・ヤコブ病(孤発性) 1例(第31週)【1月以降の累積報告数 1例】

インフルエンザ情報

・ 集団感染(クラスター)報告件数の推移[暫定値]

	第34週	第35週	第36週	第37週
京都市	18	28	58	62
全国	794	1330	2318	3284

・ 全国の新型インフルエンザ(A/H1N1)による入院患者数

	第34週	第35週	第36週	第37週
患者数	105	87	108	102
うち、基礎疾患等を有する者	43	40	45	33

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	3.59	244
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.39	98
	② ヘルパンギーナ	0.66	27
	③ 手足口病	0.54	22
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.46	19
	⑤ 突発性発しん	0.32	13
眼科	流行性角結膜炎	1.70	17

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
インフルエンザウイルスA型(1)	かぜ症候群(第35週)	NP	A群溶血性レンサ球菌(9)	かぜ症候群(第23週, 第24週×4, 第25週, 第26週), ヘルパンギーナ(第25週), A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第28週)	NP×9
RSウイルス(1)	かぜ症候群(第24週)	NP	B群溶血性レンサ球菌(1)	糖尿病(第25週)	NP
アデノウイルス1型(1)	かぜ症候群(第24週)	NP	G群溶血性レンサ球菌(2)	かぜ症候群(第24週, 第28週)	NP×2
アデノウイルス2型(6)	かぜ症候群(第24週×3, 第25週, 第26週, 第28週)	NP×6	肺炎球菌(25)	かぜ症候群(第23週×3, 第24週×3, 第25週×3, 第26週×4, 第27週×4, 第28週×3, 第29週), 下気道炎(第25週, 第28週×2), 不明熱(第25週)	NP×25
血清型病原大腸菌(5)	かぜ症候群(第26週, 第29週), 感染性胃腸炎(第24週, 第26週, 第27週)	FC×5	インフルエンザ菌b型(1)	かぜ症候群(第27週)	NP
その他のサルモネラ菌O4群(1)	感染性胃腸炎(第27週)	FC	インフルエンザ菌b型以外(14)	かぜ症候群(第24週×2, 第26週×2, 第27週×3, 第28週×3, 第29週×2), 下気道炎(第28週), A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第29週)	NP×14
黄色ブドウ球菌(30)	かぜ症候群(第23週×2, 第24週, 第25週×3, 第26週×7, 第27週×7, 第28週×3, 第29週), 下気道炎(第28週), その他急性肝炎(第23週), 不明熱(第24週, 第25週)	NP×30			

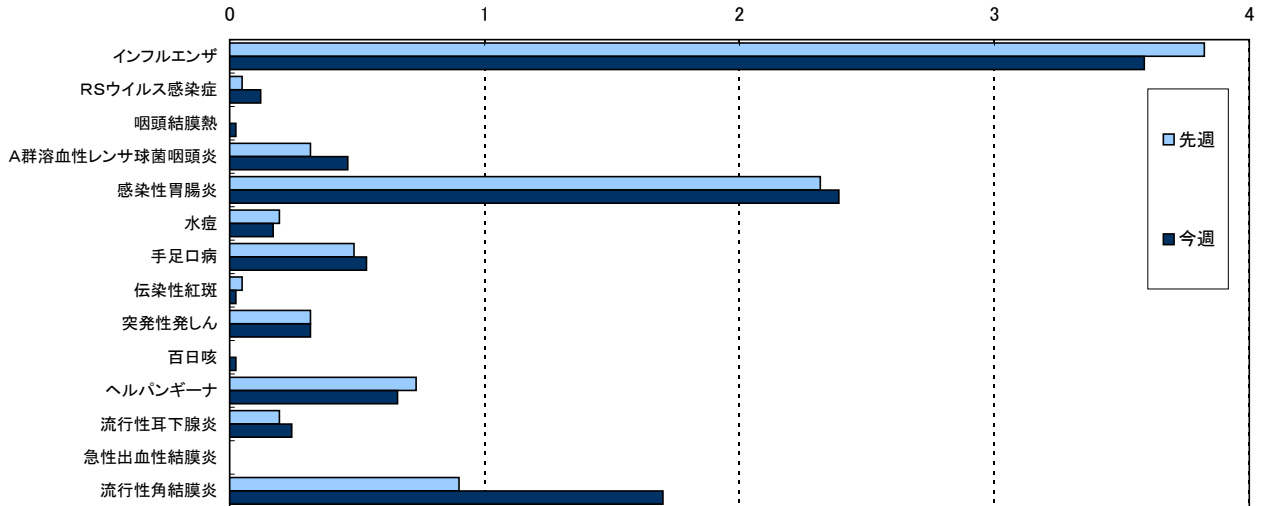
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

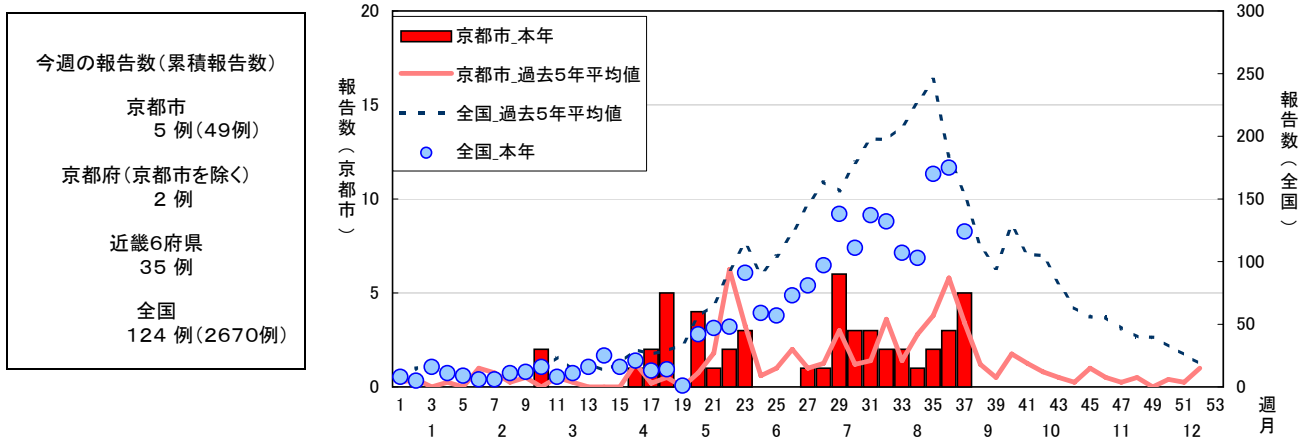
(注) 京都市のデータは、平成21年9月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第37週)と先週(第36週)の定点当たり報告数の比較



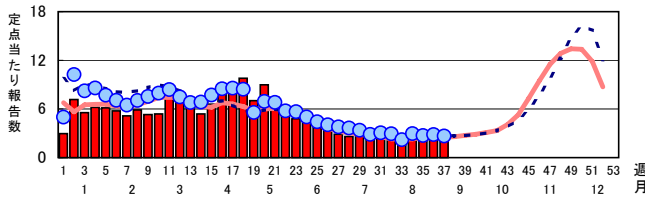
2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



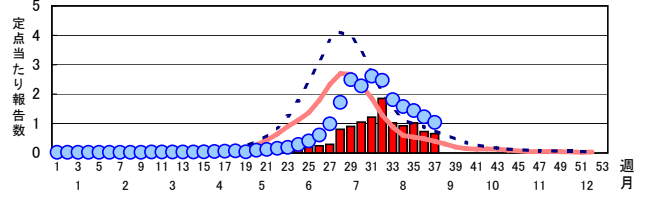
3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

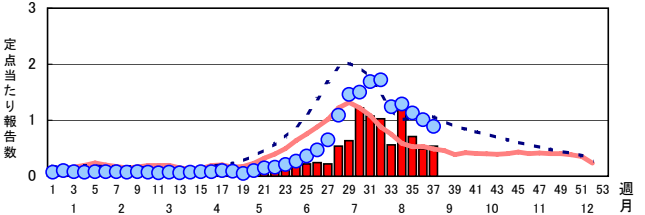
1 感染性胃腸炎



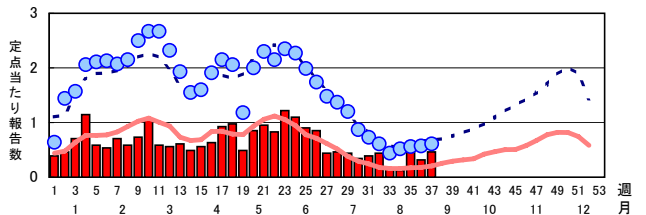
2 ヘルパンギーナ



3 手足口病

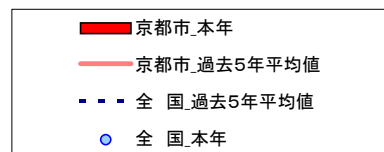
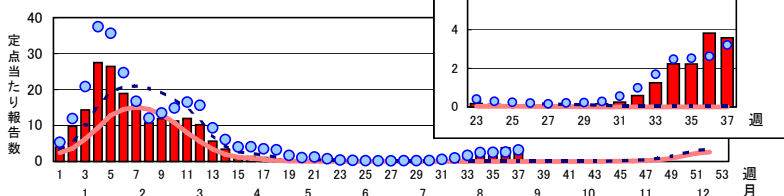


4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



第37週(9月7日～9月13日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は3.59(244例)で、先週(定点当たり報告数 3.71, 252例)に比べやや減少しているものの、全国の定点当たり報告数(3.21)を上回る高い値となっています。

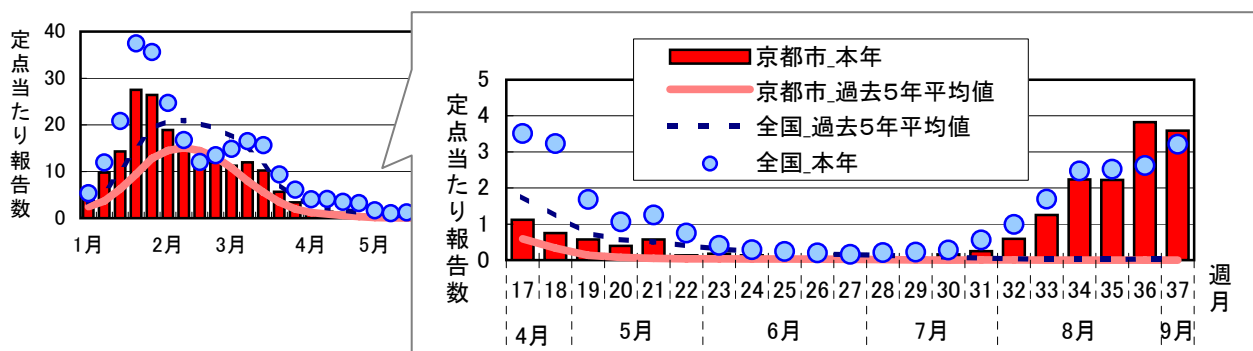
行政区別定点当たり報告数をみると、先週に比べ、6行政区(北, 上京, 左京, 山科, 伏見, 西京)で増加しています。

近畿圏で府県別にみると、京都府でやや減少(3.19→3.15)しているものの、他の府県では増加しています。

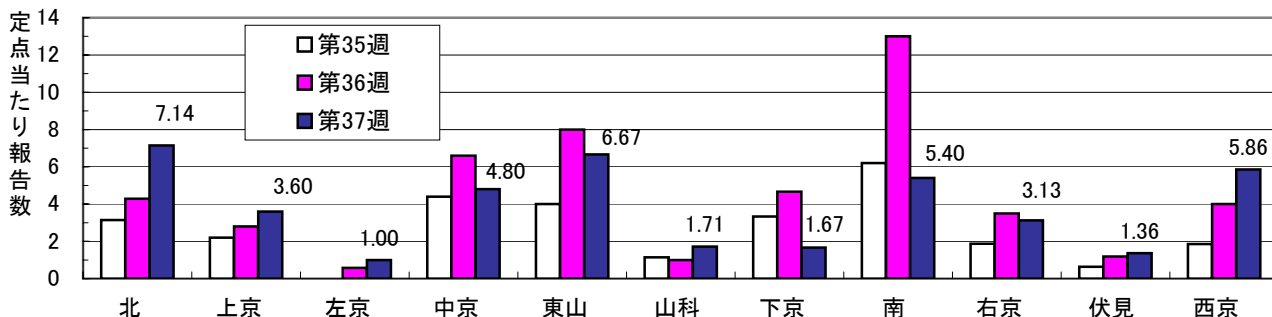
なお、第37週に、京都市衛生公害研究所で遺伝子検査によりインフルエンザA型陽性となった23例は、すべて新型インフルエンザ(A/H1N1)[AH1pdm]です。

※第30週以降、インフルエンザの報告には、「季節性インフルエンザ」と「新型インフルエンザ(A/H1N1)」が含まれています。

本市及び全国の定点当たり報告数 推移



行政区別定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

